

平成28年10月25日

保護者の皆様へ

鹿児島市立鴨池小学校
校長 勝 目 吉 昭

平成28年度 「全国学力・学習状況調査」結果および課題と改善策について

平成28年4月19日に実施しました「全国学力・学習状況調査」結果についてお知らせします。
この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てることを目的としています。調査対象は、第6学年児童で、国語と算数の2教科について、主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。

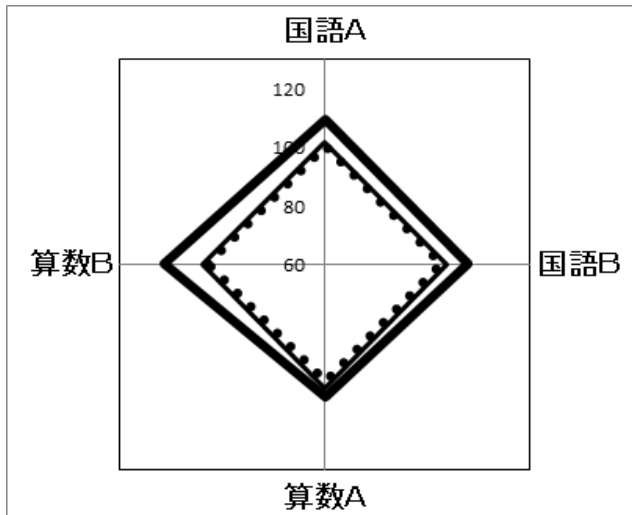
さらに、児童の学習意欲・学習環境・生活習慣等についても「質問紙調査」を実施しました。
本校では、これらの調査結果と課題、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者が一体となって児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

1 結果の概要

本校・市・全国の平均正答率の比較

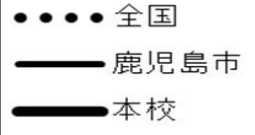
〈 全国平均正答率を100とするレーダーチャート 〉



本校は、国語科・算数科において、全国・鹿児島市と比較して平均正答率を上回っていました。

また、「A問題」(主として「知識」に関する問題)・「B問題」(主として「活用」に関する問題)においても全国・鹿児島市と比較して平均正答率を上回っていました。特に算数科の「B問題」でその傾向が顕著に表れていました。

このように、知識が確実に身に付き、それを活用する力も高まっており、たいへん優れた結果となっています。これは、本校の掲げる知育面の学校改革スローガン「よく聴き、考え、磨き合い、自分の言葉で、さあ発表!」のもと、教師の授業改善がなされ、それが子どもに浸透してきている証だと思われま



2 課題と改善策

(1) 国語A ア 課題

- 書写の毛筆において、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めることができるかどうかをみることに課題が見られました。

イ 改善策

書写の学習においては、姿勢や筆記具の持ち方、字形、筆使い、筆順、配列等について、学年の段階に応じて指導することが大切です。また、毛筆を使用する書写においては硬筆による書写の能力の基礎も養うよう指導することが必要です。文字を正しく整えて書く能力を身に付けることは、日常生活における硬筆による書写の能力を高める基礎となります。

このように、毛筆を使用することで、点画の書き方と筆圧とを関連付けて書くことができるように指導していきます。また、硬筆においても、点画の書き方や筆圧などに注意して書くことができるように指導していきます。

どうか、ご家庭でも、以上のようなことを踏まえた上で、今後とも引き続き日々の家庭学習における「漢字・日記」等の確認を姿勢や筆記具の持ち方を含めてお願いいたします。

(2) 国語B ア 課題

- 目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くことができるかどうかをみることに課題が見られました。



イ 改善策

図表やグラフを用いて自分の考えを書く際には、図表やグラフなどから目的に応じて必要な情報を取り出し、比較したり関係付けたりしながら自分の考えを明確にすることが重要です。

このように、図表やグラフの何に着目するのか、図表やグラフの中にあるどの数値や言葉を使って書くことが効果的であるのかを検討するように指導していきます。また、用いた図表やグラフとその分析内容が、自分の考えを明確に伝えるための根拠となっているのかを確かめていくように指導していきます。

(3) 算数 A ア 課題



○ 単位量当たりの大きさの求め方を理解しているかどうかをみることに課題が見られました。

イ 実際の問題

◇ 8 m^2 に14人座っているシートについて、 1 m^2 当たりの人数を求める式を求めましょう。

ウ 実際の解答例と誤答例

□ 解答 $14 \div 8$

■ 多かった誤答例 $8 \div 14$

エ 改善策

混み具合について調べる際、単位量当たりの人数が捉えやすくなるように工夫して図に表し、その図と式とを関連付けて混み具合を求める式を理解できるようにすることが大切です。

このように、問題場面を図に表して数量の関係を捉え、立式につなげることができるように指導していきます。

(4) 算数 B ア 課題

○ 示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することに課題が見られました。

イ 改善策

算数科の学習においては、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりできることが大切です。

このように、図や式などを用いて問題を解決し、児童が互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を設けるように指導していきます。

(5) 質問紙調査 ア 課題



- ・ 全国・県に比べて、生活習慣に昨年度同様課題がある。→ 学力の定着と比例している。
 - ▼ 朝食を毎日食べていますか。
 - ▼ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。起きていますか。

イ 改善策

重要

家庭で行うべき「しつけ」は、家庭でしっかり行う

生活習慣については、本校では、かねてから体育面で「早寝・早起き・朝ご飯、笑顔であいさつ、お手伝い」を奨励してきましたが、家庭でのリズムある生活が学力の向上に繋がることが明らかになっています。昨年度もお願いしましたが、保健指導部の定期的な「生活リズムチェック表」などを機会に引き続き生活習慣の確立をお願いいたします。

学習習慣についても、本校作成の「家庭学習の手引き」をもとに、学年の発達段階に応じて宿題はもちろん、家庭での学習の計画を立てさせたり、音読を中心に予習や復習など家庭での学習状況の見届けをしたりするなど、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

